

アジアに「甲子園」を作る 元プロ野球選手の経営者が挑む野球振興の夢



Interview

No border 株式会社 代表取締役／一般社団法人 NB.ACADEMY 代表理事／元読売ジャイアンツ 投手

しばた

しょうご

柴田 章吾 さん

1989年、三重県生まれ。小学6年生の時に「4番・投手」としてボーイズリーグで全国制覇。中学3年生で日本代表に選ばれるが、直後に厚生労働省指定の難病「パーチェット病」を発症。闘病を続けながら野球の名門・愛知工業大学名電高等学校に進学し、3年生の夏に全国高等学校野球選手権大会（甲子園）に出場。その後、明治大学野球部に入学。2011年、プロ野球ドラフト会議で読売ジャイアンツから育成3位指名を受け、投手として入団。3年間在籍後、2014年限りで現役引退。その後、株式会社読売巨人軍球団職員、外資系コンサルティングファームを経て、2019年にNo border株式会社を創業。コンサルティング、コンサルタントと企業のマッチング、スポーツブランディング等の事業を手掛ける。2022年に一般社団法人NB.ACADEMYを設立し、「日本が誇る夏の感動をアジアへ」をビジョンに掲げて、野球振興に力を注ぐ。

【取材・文】 勝田 慶 中小企業診断士 【写真提供】 安岡 嘉

Interview >>> Shogo Shibata

— The prologue

大谷翔平選手をはじめ、多くの日本人選手がアメリカ・メジャーリーグで活躍し、2023年のWBC（ワールドベースボールクラシック）でも世界一となった日本野球。その強さの源泉ともいえるのが、全国の高校球児たちが頂点を争い、毎年新たなスターやドラマが生まれる「甲子園」ではないだろうか。

そんな「甲子園」大会を、野球が盛んでないアジア諸国に輸出し、野球を通じてアジアの子どもたちに新たな目標を作り出すとともに、野球振興につなげたいと考えているのが、元プロ野球選手の柴田章吾氏である。

難病であるパーチェット病との闘いも、甲子園という夢の舞台があったからこそ乗り越えられたという経験を持つ柴田氏に、「アジア甲子園」創設に向けた思いや、今後の展望について語ってもらった。



コンサルティングと 野球振興の二刀流

—現在の活動について教えてください。

主に2つの活動を行っています。

1つ目は、No border株式会社の仕事です。独立して最初に創業した事業会社で、今年で6年目になります。創業当初は私1人でコンサルティングを行っていましたが、顧客の多様な課題に対応するためにチームを作って、コンサルティング案

件のマッチングプラットフォームを構築し、その運営に注力しています。海外案件に挑戦したいコンサルタントが増えてきたことから、今年からシンガポールに移住し、現地法人を立ち上げました。日本で構築したプラットフォームをアジアに広げようと動いています。

2つ目は、アジアへの野球普及・振興の取り組みです。もともとはNo borderのスポーツブランディング事業の一環として、アスリートやタレントのイベントや講演会、卒業式へのキャスティングなどを行っていました。その過程で自分自身がお世話になった野球界に、より大きな規模で貢献できないかと考え、一般社団法人NB.ACADEMYを立ち上げました。その代表的な取り組みが「アジア甲子園」のプロジェクトです。今年12月にインドネシアのジャカルタで第1回大会を開催する予定で、今はその準備と並行して現地での野球教室や、フィリピンのスラム街を訪れ、現地の子供たちへの野球を通じた進学支援などを行っています。

—「アジア甲子園」とはどのような企画ですか。

日本の「甲子園」と同じように、インドネシアの州単位で14～18歳の選手による代表チームを作ってもらい、試合を予定しています。独立後の